

① 各種ガイドラインに準拠した報告の質 (5点)

【基準点】

- ・ 各種ガイドラインに準拠しているか (5点)
(CONSORT (無作為化比較試験)、STROBE (観察研究)、PRISMA (系統的レビュー)、COREQ (質的研究)、TRIPOD (予測モデル開発) など)
全く準拠していない (0点)
ほとんど準拠していない (1点)
少し準拠している (2点)
ある程度は準拠している (3点)
おおむね準拠している (4点)
完全に準拠している (5点)

② 方法論の厳密性 (4点)

- ・ リクルートにおいて、適切な方法でバイアスを最小限にとどめる工夫ができているか (2点)
※文献などを対象⇒複数のデータベース利用、多角的な検索式など
※人を対象⇒サンプリング (単に所属機関の大学生や患者は△)、盲検化、ランダム化など
- ・ 手続きにおいて、適切な方法でバイアスを最小限にとどめる工夫ができている (2点)
※調査研究⇒研究目的に合致した評価指標選択・質問紙設計など
※実験研究⇒研究目的に合致した実験妥当な実験計画など

③ 研究の独自性・発展性・稀少性 (6点)

- ・ 対象者の稀少性や価値 (2点)
※稀少な疾患や特性もつ集団など、貴重な対象
※罹患者数の多い疾患や誰もが抱える問題など、国際的にも意義のある対象
※近年特に問題になった領域に関する知見 (新型コロナウイルス、オンライン診療など)
- ・ 方法論の稀少性や価値 (2点)
※オンライン化、自動化、人工知能の活用など、近代科学による挑戦や工夫
※新しい統計手法の活用など、解析手法に関する挑戦や工夫
※実験課題やテストバッテリーの面白さ・独創性
- ・ 研究成果、データの価値 (2点)
※他領域への応用可能性
※認知行動療法への貢献
※一般化可能性